

塾の宿題について、早稲田の杜はこう考えております。

塾の宿題については、いろいろな声が寄せられます。

「学校の先生が全く宿題を出さないで塾のほうでガンガン出してほしい」という声がある一方、「学校からの宿題が多くて塾の宿題までやりきれない時がよくあるのでやらなかったからといって厳しく叱らないでほしい」とか「学校の宿題を優先しないと内申点に影響するので塾の宿題は抑えめにしてほしい」など様々あり、いずれもそれなりに傾聴すべきご意見であると考えます。

早稲田の杜が宿題を出すには大きく二つの理由があります。

第一の理由は、塾で学んだことの定着です。

早稲田の杜での指導は主に先取り学習です。学校より先に進めることで学校での学習の理解度を高め、勉強に自信を持たせるというねらいがあります。

早稲田の杜が理想とする学習のステップは、塾でまずしっかり理解させる。そして、家庭学習でその定着を図る。その上で学校での授業に臨めば理解度は確実になり、しっかりと身につけさせることができる。

「人間は忘れる動物である」とよく言われます。単に塾で「わかった」だけで終わりにしては、しばらくすると「こんなの習ったかな？」になってしまいます。定着させ、習ったことを幅広く応用できるだけの力にまで育てるには、反復という繰り返し学習が不可欠です。

宿題を出す第二の理由は、主体性をはぐくむ家庭学習の習慣です。塾や学校での勉強はどちらかと言えば受け身の学習です。入試のための勉強、あるいは、難度の高くなる高校などでの学習内容にしっかり対応していくには、家庭での自発的な取り組みが必要不可欠なものになります。小学生、中学生の段階から家庭学習の習慣をつけさせることは極めて大事だといわざるをえません。

このような観点から宿題を出しておりますが、宿題が多すぎると、その答え合わせだけに授業が終始してしまい、学んだ内容の応用、発展的問題への取り組みができないほか、次の学習内容へ進めないまま時間が終わってしまいます。

宿題についてはその日の学習内容が定着できる分量、かつ、その答え合わせに授業時間の三分の一程度の時間で済むような分量を考慮し出しております。